



# まつやま

- 瀬戸内海道船上ガイドモニターツアー…10面
- 松山市のまちづくり債販売……………2面
- 坂の上の雲ミュージアム企画展テーマ展示…3面
- 市民ガイド……………5~9面



市公式携帯サイト

無料メルマガ配信!

松山Smile通信 検索

発行:松山市役所/編集:総合政策部広報課/毎月1日・15日 ☎948-6705 FAX 934-2578 HP http://www.city.matsuyama.ehime.jp/

一人でも多くの人を笑顔に 全国に誇れる、わがまち松山

## 誕生 鍋焼きスカレーうどん



横須賀名物  
松山名物  
食でコラボ

「鍋焼きスカレーうどん」は、集客パートナー都市協定を結ぶ横須賀市と本市の魅力を食べPRしようと、横須賀名物「よこすか海軍カレー」と松山名物「鍋焼きうどん」をコラボさせた一品。

旅行で訪れていた韓国のウ・ピアさんは「カレーと鯉節の味が合わさっているのに驚いたけど、とてもおいしかったです」と話していました。現在、ロープウェイ駅舎1階チケット売り場で、天守閣観覧、ロープウェイ・リフト往復乗車、鍋焼きスカレーうどんのセット券を1日30枚(中学生以上1300円・小学生800円)限定販売しています。



石垣の特徴を話すガイドキッズの説明に観光客はニッコリ

ガイドキッズとして活躍したのは東雲小4年生37人。児童は事前に、ガイドの指南役、松山観光ボランティアガイドの高須賀勲さんから「話す内容よりも笑顔でのおもてなしが一番大事です」と教わり、当日は班に分かれ天

ガイドキッズとして活躍したのは東雲小4年生37人。児童は事前に、ガイドの指南役、松山観光ボランティアガイドの高須賀勲さんから「話す内容よりも笑顔でのおもてなしが一番大事です」と教わり、当日は班に分かれ天

## 松山城 410歳



(東雲小)

笑顔のおもてなし

保存してください。いつかまた お役に立ちます



祝いの餅まきに本丸広場はたくさんの人でにぎわう

守閣や本丸広場、筒井門など各ポイントで積極的に観光客に声を掛け、見どころなどを説明しました。

札幌市から家族旅行で訪れた玉木克紀さんは「子どものガイドは初めてでびっくり。しっかり勉強していたのでしようね、分かりやすかったですよ」と松山の思い出の一つにしています。

本丸広場でガイドをした村上昌くんは「笑顔で接客できてよかったです。僕のお薦めは天守閣からの眺めです」と地域の宝、松山城をたくさんの人に知ってもらえた満足感に目を輝かせていました。

お問い合わせは、観光産業振興課 ☎948 6556・FAX 934 764へ

### 読者プレゼント



松平定知さんのサイン色紙を抽選で3人にプレゼント

応募先 ☎790-8571 広報課「松平定知プレゼント」係

はがきに郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、広報紙への意見を書いて、2月29日(必着)までにお送りください。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

読むのではなく自分の言葉で伝える

「物事を伝えるときに心掛けていることは私は作家の井上ひさしさんから教えていただいた「難しいことをより易しく、易しいことをより深く、深いことをより面白く」という言葉をアナウンサー人生の柱としてきました。」

「その時歴史が動いた」のスタジオ部分は、必ず自分で原稿を書きました。そして、書き終えた原稿を見ると、その原稿を破り捨て、何も持たず本番に臨みました。物事を伝えるという事は、伝わらなければ意味がありません。他人が用意した文章を上手に読もうとするのではなく、自分の考えた言葉で伝えようとするのが大事だと思います。

松山市民へのメッセージを

温暖で穏やかな風土に育まれ、おっとりとした気質で、常に温かく迎え入れてくれる松山の人が大好きです。これから何度も訪れたいです。

### こんにちは松山

松平 定知さん



1944年生まれ。東京都出身。1969年アナウンサーとしてNHK入局。朝と夜の「7時のテレビニュース」、「その時歴史が動いた」キャスター、その他数多くのNHKスペシャルを担当。2007年11月にNHKを定年退職後も、同局キャスターとして活躍中。

番組撮影のため本市を訪れた松平定知さんにお聞きしました。

松山での思い出は

入社当時、アナウンサーとしての新人研修が松山で行われました。そのため「松山」と聞くと、アナウンサーとしての基礎をみっちり叩き込まれた研修のことが、今でも思い出されます。

松山の偉人・正岡子規について

享年35という若さでこの世を去りましたが、その人生は若くして病に侵されるなど、決して順風満帆ではありませんでした。しかし周りに悲壮感を与えることなく、常に明るく前向きに生き、俳句の革新という大偉業を成し遂げ、俳句を芸術の域まで高めたことは、文学史に燦然と輝く功績だと思います。